

第7章 昆虫類(コウチュウ類)

1. 調査概要…………… 7-1
2. 調査結果の概要…………… 7-6
3. 用語の解説…………… 7-22
4. 引用文献…………… 7-23
5. 調査確認された種のリスト…………… 7-23

執筆者 城戸 克弥

1. 調査概要

(1) 調査対象

市内に生息するコウチュウ類全般を対象とするが、水生昆虫、土壌・地表性のコウチュウについては、調査方法が全く異なるため、調査対象としない。但し、これらの内、通常の調査で得られたものはリストに加えた。

市内に生息するコウチュウ類の種類については未だ解明できていないが、恐らく 2500 種を超えるものと思われる。また、調査期間、調査方法、調査者の力量も踏まえると、対象のすべてを掌握することは不可能である。可能な限りの調査と同定の結果であることを断っておく。

(2) 調査対象地域

表 7-1 調査対象地域

No.	今回の名称	代表する環境特性、調査地域など	前回の名称
1	沖ノ島	離島の自然林と港周辺、山頂への登山道	沖ノ島
2	地島	遠見山の自然林・二次林と海岸地域	地島
3	大島	御嶽一帯の自然林と海岸の樹林地、海岸地域	大島東部・御嶽周辺
4	城山	山地の自然林と登山口周辺の畑地・荒地	城山
5	白山周辺	山地の自然林と登山口周辺の畑地・荒地	孔大寺山山麓
6	さつき松原	海岸砂丘と海岸クロマツ林内	さつき松原
7	許斐山	山地の自然林と登山口周辺の畑地・荒地	許斐山
8	新立山周辺	新立山山頂付近や山麓の二次林、道路脇の藪	武丸周辺台地
9	名残	谷地田と樹林地、道路周辺の二次林や藪	名残の谷地田
10	八所宮	イチイガシやトキワガキからなる神社林内とマント群落	(未調査)
11	鐘崎海岸	織幡神社周辺の樹林地や京泊から黒崎鼻に至る海岸砂丘地域	(未調査)
12	草崎半島	半島周辺の荒地、神湊から釣川河口に至る海岸砂丘地域	草崎半島
13	(未調査)		多礼貯水池周辺
			樽見川上流

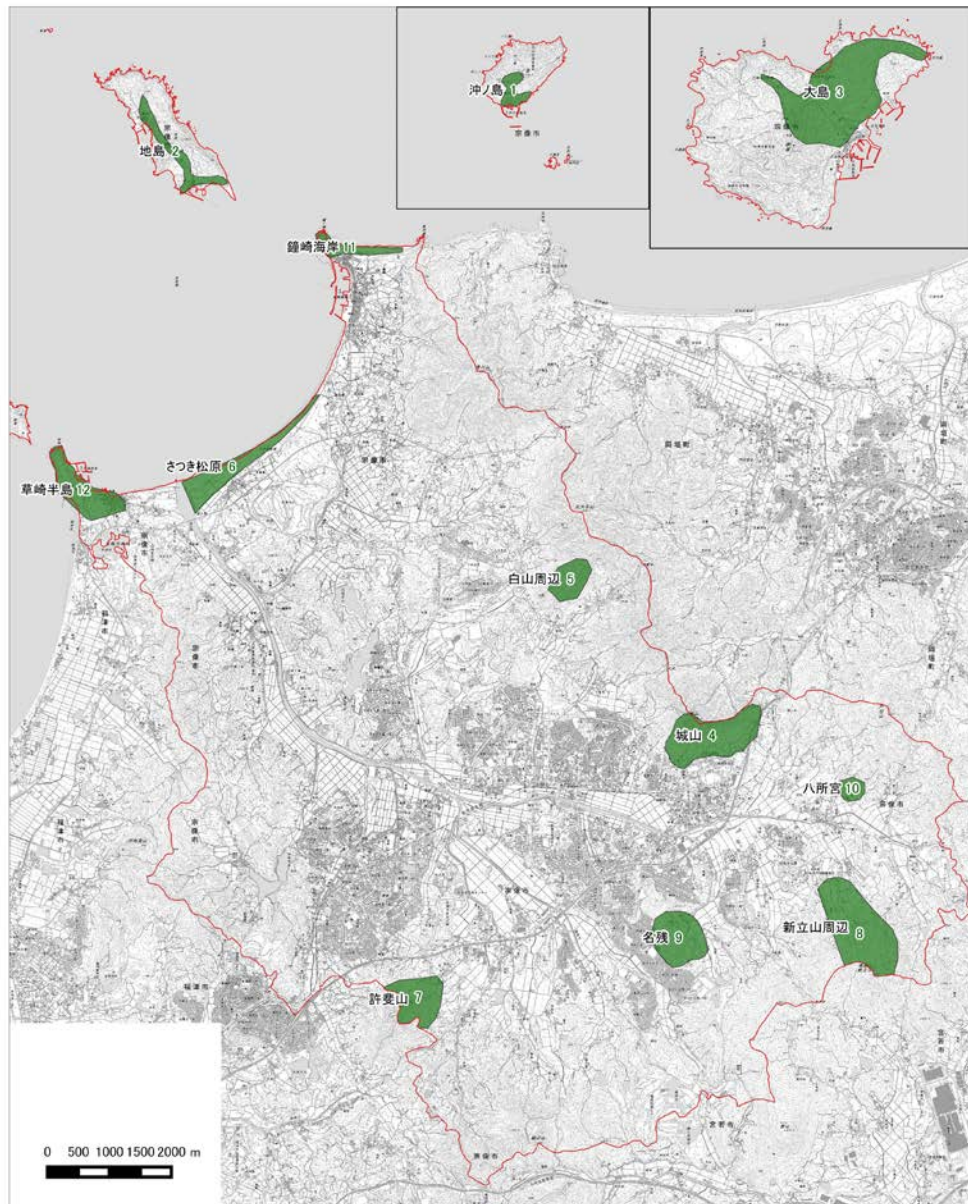


図 7-1 調査対象地域

(3) 調査方法

1) 既存資料調査

前回調査以降の調査研究に関わる研究物は、前回調査を基にした報告書などがある。これらは引用文献として最後に示している。前回調査以前の資料は省く。

2) 現地調査

現地調査は「叩き網」によるビーティングを主に行った。また、「叩き網」を広げ刈り取られた雑草を篩った。海岸砂丘地域では「篩、直径 30 cm、2mmメッシュ」を使って砂を篩った。さつき松原と八所宮では「衝突板トラップ」を使用した。さつき松原では 15 基 4～6 月の期間、八所宮では 20 基 4～8 月の期間設置している。なお、「衝突板トラップ」は「丸山式 F I T」を改変したものである。沖ノ島と八所宮では各 1 日、「ライトトラップ」による調査も行った。



叩き網（ビーターティング）による調査



篩による海岸砂丘の調査



衝突板トラップ（八所宮）



衝突板トラップの設置状況（八所宮）



衝突板トラップ（受け皿の状態）



吊り下げ式衝突板トラップに乾電池式
ブラックライトを設置



ライトトラップ（八所宮）

図 7-2 調査方法

種の同定は、顕著なものは現地で行い、微小なもの不明なものはすべて持ち帰って行った。

3) 調査協力者による情報処理

調査協力者による情報のほとんどは現地生態写真であったが、写真による同定が可能なものは調査結果に加えた。従って大型で顕著なものに限られるが、これらは現地調査ではなかなか見つからないものが多く、有益であった。

(4) 調査日時

表 7-2 調査日 (調査年は 2015 年)

調査地点	月	4					5					6											
	日	13	18	22	24	27	2	5	10	14	17	21	29	2	4	10	14	15	20	22	23	28	29
1	沖ノ島																○	○					
2	地島				○										○								
3	大島							○												○			
4	城山								○		○		○										
5	白山周辺											○											○
6	さつき松原					○		○		○		○			○						○		
7	許斐山						○																
8	新立山周辺		○																○				
9	名残			○					○														
10	八所宮	○	○	○			○		○	○			○			○						○	
11	鐘崎海岸					○				○			○			○			○		○	○	○
12	草崎半島									○						○				○	○	○	

調査地点	月	7							8				9		合計	
	日	3	8	11	15	20	25	29	31	8	15	23	29	12		14
1	沖ノ島															2
2	地島			○												3
3	大島						○									3
4	城山	○				○										5
5	白山周辺				○											3
6	さつき松原								○			○		○		9
7	許斐山									○						2
8	新立山周辺							○								3
9	名残								○							3
10	八所宮		○		○	○		○		○	○	○	○			17
11	鐘崎海岸		○		○				○			○		○	○	13
12	草崎半島													○	○	7

※さつき松原と八所宮は衝突板トラップの回収を兼ねる。

※八所宮 7 月 15 日は、ライトトラップによる夜調査を兼ねる。

(5) 種の調査基準・区分

1) 保全すべき種

保全すべき種については、次の考え方によって選定した。コウチュウの場合、1 cmを超えるような種は全体としてはわずかで、おおむね 5 mm、またはそれ以下の種が大部分を占めている。生息場所についても、地表、草本・木本植物、また、それらの生きたものから枯死したものまで、しかもそれらの表面だけでなく材中にも生息している。生息状況としては、群体で生息することは稀である。これらのことを考え合わせると、1年間の調査期間中で現認される種は、普通種であっても難しい場合が多い。

前回調査との比較を試みながらも、今回、現認されなかった場合でも生息が十分に考えられる種が多数あることを含んで評価することにした。

○福岡県レッドデータブック 2014 に選定された種（以下県 RDB2014 と略記）

県 RDB2014 に選定された種の内、水性のものをのぞく対象種。

○宗像市をタイプロカリティとする種

宗像市を基準産地として新種となった種。

○学術的に貴重な種

今回調査で現認した学術的に貴重な種。対象として分布の北限や南限になるもの、個体数が非常に少ないもの、個体数は不明だが採集記録が少ないもの、主に英彦山などの山地帯で生息が確認されていたもの、生態的に興味深いもの、新種記載後間がないもの、などとした。

○市民生活に関わりのある種

一般によく知られている愛玩昆虫としてのクワガタムシ、コガネムシ、タマムシ、ホタル、テントウムシ、カミキリムシなどの大型種の生息状況、記録の状況など。

2) 留意すべき種

○分布を拡大していると思われる種

近隣の地域、または市内の特定地域から分布を広げたり個体数が急に多くなったりした種。逆に前回の調査で近隣の地域、または市内の特定地域から分布を広げ今回調査で急に個体数が減少した種。

○侵入種と思われる種

主に前回調査以降、宗像市から離れた地域を起源として侵入したと思われる種。